

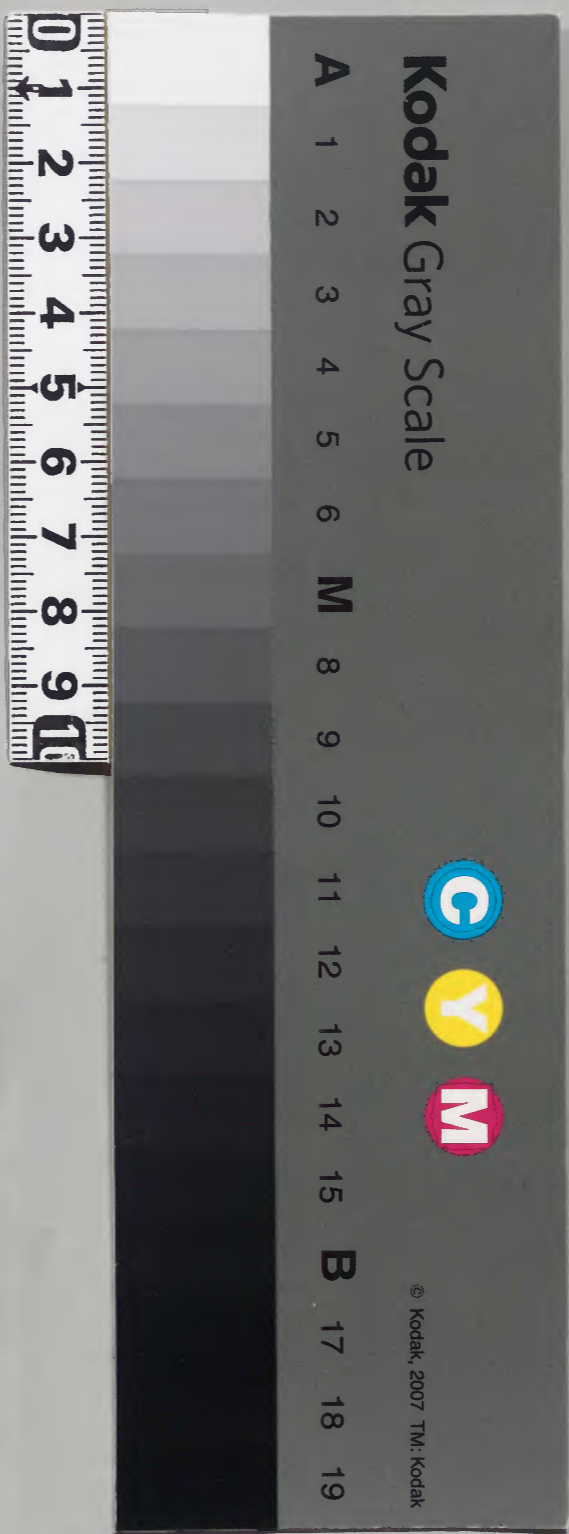
新撰海人雜 卷五

庫	文	閣	内	
三	一			和
五	六			書
函	九			
二	九			
架	五	冊	號	類

庫	文	閣	内	
九	一			和
九	六			書
函	九			
一	九			
五	五	冊	號	類

新獻

内閣文庫	
番號	和 16995
冊數	10 (5)
函號	199 300





嘉寶後之

五

淺草文庫

和學講談所

琴曲

吳山

吳山路

古今

忍

若月

琴曲香之祀

松風 琴 松風 琴 琴

名 松風 琴 松風 琴 琴

名 松風 琴 松風 琴 琴

名 松風 琴 松風 琴 琴

名 松風 琴 松風 琴 琴

名 松風 琴 松風 琴 琴

月 日

小島香之事 吳中書也

香三種

- 一 香
- 二 香
- 三 香

右紙の 中香九包とて 香を二種に分ち

し 一孔ありし 也尚内之糸紙を用由

一 同第八三箱も 別香あり 鶴一三同本三別な

らば 箱一別香三三同本あり 香一三同本

二別香あり 孔箱三箱も 同本あり 鶴

古の通書也

山崎香之丸

一
二
二

能紫

うし

風

くさ

せ

む

全全全全

山路香之奉

香三種

霞

三包内一包紙

芳

三包内一包紙

岩

一包内一包紙

右の香より紙詰りて申香の包より海せく
二粒也を香櫃式のよき紙詰りて二粒開
きり利

一字

霞

三

古今香之率

香三種

萬 土包 四一包法
蛙 土包 内一包法
少 二包 二包法

右萬蛙三河... 中香部拾貳包...
ませ合く二指... 二鏡也

一 圓...

蟹 蟹... 蟹...
蟹... 蟹...
蟹... 蟹...

蟹... 蟹...
蟹... 蟹...
蟹... 蟹...
蟹... 蟹...

一 礼妻の文字

あ... あ...
あ... あ...
あ... あ...
あ... あ...

一 札の... 札の...
札の... 札の...
札の... 札の...

右札の... 右札の...
右札の... 右札の...

此名と書と行り

香七種

香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種

香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種

香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種

香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種

月日

香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種

忍香之事

香七種

香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種

香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種

香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種

香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種

香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種

香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種

香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種

香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種 香七種

一 煙がくまふ字也

一 孔の毒の文字

ぬき衣

海のくま

くま衣

あま

おらん

おらん

くま衣

あま

ゆき

おらん

一 孔のくま

くま衣

あま

くま衣

あま

おらん

おらん

くま衣也一人分七枚也

忍香之記

神衣

神衣

神衣

神衣

神衣

神衣

濡衣

濡衣

濡衣

濡衣

濡衣

濡衣

濡衣

濡衣

薰衣

薰衣

薰衣

薰衣

薰衣

薰衣

薰衣

薰衣

通衣

通衣

通衣

通衣

通衣

通衣

通衣

通衣

月日

右名条八下に申座しや也也人乃漸名
以候ありせんハ申さる也

花月香之事

香二種

花 一包八紙
月 一包六紙

右二種をこく申香二種と申せども二種
印も亦也

一 蘭草ハ花月や安ハ順也月花や安
ハ送也但しむすハ孔王當時ハ名宗紙
少く順の氣送の行しや申出次也

花月と行り御所を鑑合よ

て御所はを世よい名花月也
鑑合是こせらり利

一 孔の表に云々

- | | | |
|------|----------|------|
| いぬき山 | 志あし山 | 寺う海山 |
| くわぬ山 | うさう山 | 津ぬる山 |
| うらみ山 | うらみ山 | えん山 |
| 衣笠山 | いれと別所所よて | |

ちのれ表ハかのこくいそく
順の行し 送の行し

花月香之紀 每月見
月 每

高島山

此の何し

浅香山

此のあり

衣笠山

此のあり

伊吹山

此のあり

葛城山

此のあり

郭公香之事

一 時香香八面より聞えたる香と一類宛書
 中包て我名を中よかりて書付也何人より
 香中包の紙并抄取等して一書にそりていく
 包ありしとてを合く一類つて母ふ安也

一 聞月より八面よりあるまで安給うてを後
 何香も我香より事と名乗紙に事付
 以て香とて之渡也其抄中の同本何れ何香
 同とていふ事と書出す也

郭公香之祀

一名条
二名条
三名条
四名条
五名条
一般

一名条

同之入行
之入行

一
二
三
四
五

一名条

一名条

一名条

五日前

四日前

月日

祀神八右之通了祀之香治之書平八百端事
治之別紙に書記申事如左

時香香治之祀

一
二
三
四
五

和香

早

河香

鳥香

香石

一名条

一名条

一名条

一名条

一名条

右之通了祀之何人より申事也

香粧香之事

香六種

- 梅いろう 二包内一包法
- 橘はらうか 二包内一包法
- 梨なつ 二包内一包法
- 櫻うめ 二包内一包法
- 香ゆき 二包内一包法
- 少 一包内一包法

右の包法とすなり香六包とす一打をせて一握
ひきまよす也

或人い香と雪月香をいす一又吳香月記
ともいふなりや尚家の香をて用甲之を古書
よ香名やてむう有之こ

一 札の表の文字

- とくま登 ちり
- ぬま川 大うち山
- せりり ちりさ
- かめ山
- とこを
- とこを

一 札のうらま

- 梅 橘 菊 月 雲 少 上字元
- 書り利

其名香之施

月ノ菊香梅

奇山

乳乳乳乳乳

志原山

風葉香梅

多岐川

葉葉梅月

月日

三種香之事

香三種

- 一 二包 月一包 八紙
- 二 二包 月一包 同
- 三 二包 月一包 同

右一二三三包試終りて中香三包をよみて一紙
 の三度と焼之三種終りて聞先(た)る通を一二
 三と如くも三二一と如くも二三一と如くも各茶小
 書付く如次也此三種香をよみて一紙十紙香
 とし一紙一紙之茶香書茶付く之を一紙

入口類して安一例とす

三類香之記

一 二 三

名紫

一 二 三 忌三

全 二 一 三

全 三 二 一 一

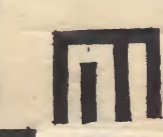
月日

系圖香之事

一 系圖香之事ハ香四種より十類まであるなり
 記す也何の記よりなる類教書と云包包よ
 一々を内より利四種字也志野志野信書よ
 七有之は通也信之こにマヤ一々
 不記之海氏香とて五式拾包を中せてその内
 よりお類きくも系図より始まる麻花流後
 伊代もその系圖書より其のこてよ志の次男の内と
 院なるよ之別記の書に何れを全号のあら

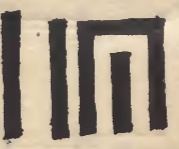
自新乃圖此法身と云う一とせと云う一と云う
會小新よ書としよ一と云う

四柱香之祀



むくろ香

名案



あけがの

名案



ひらむり

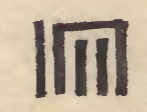
名案



園のりや

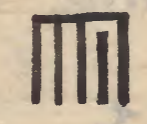
月日

五柱香之祀



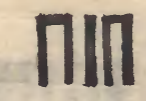
のりや

名案



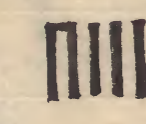
のりや

全



のりや

全



のりや

全



のりや

全

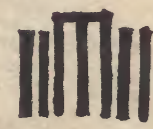


のりや

月日

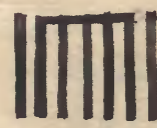
月日

名



ふのり

名

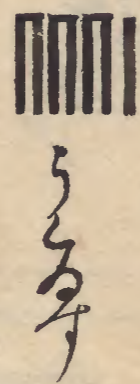


はるみ

名



はるのり



うらみ

七種音之記

全

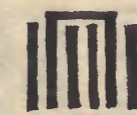
全

名



せきのり

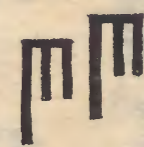
六種音之記



さのり



はるのり



はるのり

月日

右の音記法の総てを同
系圖音之本

六指音

五指音

六指音

七指音

十柱音

ほろろ
八重打
まろろ
ろろろ
わろろ
ろろろ
ほろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ

八柱音

あろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ

十一柱音

ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ

九柱音

ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ

山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎
山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎
山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎

山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎
山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎
山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎

右の如く曰く火とてうらうらと云ふは好也也

一 初年有六音三種之
又同本初年三種也

一 晴有六音二種之
初年音二種也

一 小蝶有六音三種也
各別本也初年三種

一 娘有六音一種之
各同本也

一 野宮有六音三種也
一四同本二三同音初年

一 一馬の内りねとちの通也但もハみ種之六短又
 七短八短九短十短も同也也若ハ新行のこしく
 上の漢さめもハ同本とられたるハ別香也
 一 香元ハとてしと祀さぞ短出すハ一を中ハ
 一 安令く何短香やハ一を安と令ハ
 一 心元ハの短と中短又書付香元ハ源也香元
 ハ字ハ短ハ一とやハ一

一 飲物香之事

一 飲物香ハ清臭に去るぐハ亭主或ハ客通ハ
 一 一におと出す會ハ一ハ一香の短合何香
 一 一てもある事也

一 景物香之事

一 景物香ハ飲物香のこしハ一ハ一何物やハ一
 一 一とおとすハ一ハ一何事也

掛物香之奉

一 掛物香ハ香付申上ル物ニ掛物トシテ何れも
 名を好香中(後)一十短香はそと何れも
 香はくと安給て息がみの人より掛物の物
 と判トく百事也恙同息何れと存の人
 利判トて此等一追加を学事可る一
 これも一息給先ハ名をよきとて反べき
 利

一 掛物に祀うくたのごと

掛物之記

- | | |
|-------|----------|
| いん槩 | 名案 判者の人也 |
| ふ二煙 | 名案 |
| 山田 | 名案 |
| みつとん | 名案 |
| 神の儀 | 名案 |
| 妻は百のり | 名案 |
| 七のり | 名案 |
| れ、鏡 | 名案 |

月日

雅亭

嘉慶庚子夏月

